

今日のトピック ブラジルの金融政策：更なる利下げへ（2019年10月） 0.5%利下げで政策金利5.0%、もう一段の利下げ示唆

ポイント1 0.5%の利下げ 緩和局面が続く

- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、10月30日の金融政策委員会で、政策金利を0.5%引き下げ、過去最低となる5.0%とすることを全会一致で決定しました。利下げは3会合連続となり、緩和局面が続いています。

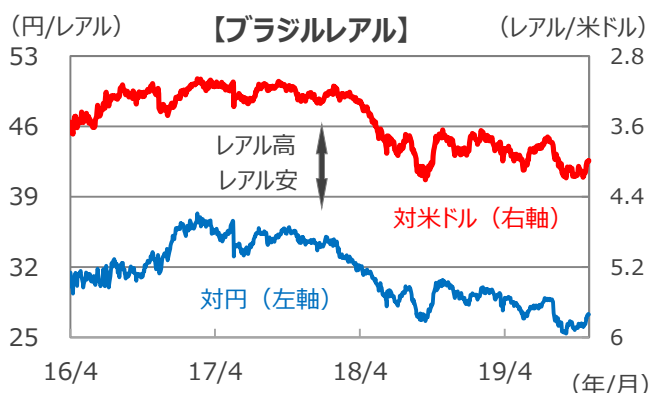
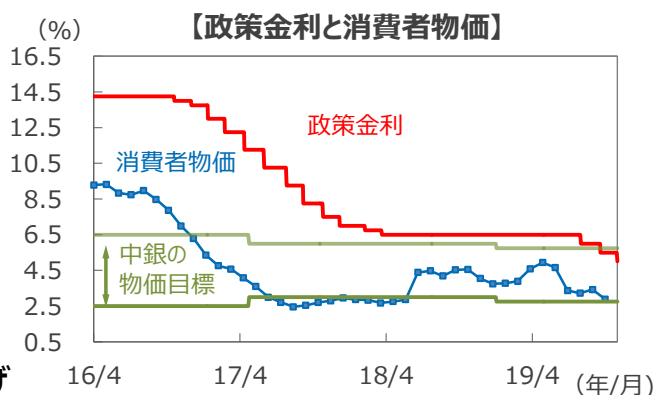
ポイント2 政策金利は5.0%へ インフレ低下でもう一段の利下げ

- 声明では、今後の金融政策の方向は経済活動やインフレ見通しなどの状況によつてしながら、足元のインフレ見通しが抑制されていることから、更に0.5%の追加利下げの余地があると述べており、経済動向次第で更なる利下げを行うことを示唆しました。弊社では、2019年年末の政策金利を4.5%と見込んでいます。
- ブラジルの9月のインフレ率（IPCA）は前年同月比+2.89%と、歴史的に低い水準が続いています。中銀がまとめたエコノミスト調査では、2020年末のインフレ率予想は+3.6%と、中銀の目標レンジの中央値（4.0%）を下回っています。

今後の展開

年金改革法案は成立へ 経済対策、構造改革に期待

- ブラジルの年金改革法案の審議は順調に進み、上院議会での2回目の採決を通過しました。大統領の署名をもって成立します。歳出削減規模は10年間で約8,000億レアルとなり、当初予定の1兆2,000億レアルから縮小されましたが十分な規模であり、中長期的なプラス材料と言えます。ゲデス経済相は様々な規制緩和や経済対策を進めており、金融緩和とともにブラジル経済を押し上げることが期待されています。
- ブラジルレアルは、年金改革法案の可決や景気回復期待を織り込みながら堅調に推移しています。米中貿易問題や各国政治動向などの不確実性の高まりを受けて外部環境に左右されやすい場面も予想されますが、相対的に高い金利が下支えになると見られます。



ここも チェック!

2019年10月16日 IMFの世界経済見通しは2019年が底
2019年 9月19日 ブラジルの金融政策：低インフレで緩和余地拡大（2019年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。